

資料3

# 2015 年度

# 『学校ボランティア通信』

## （横浜キャンパス）

① 2015 年 7 月 17 日 発行

② 2016 年 2 月 27 日 発行

# ボランティア通信

**JIN-KANA 学習塾**

**神奈川中学校・港中学校**

**六角橋中学校**

**松本中学校**

**栗田谷中学校**

**白幡小学校土曜塾**

**戸塚中学校土曜塾**

**横浜総合高等学校**

**戸塚高等学校定時制**



**白幡小学校**

**二谷小学校**

**神橋小学校**

**大口台小学校**

**南神大寺小学校**

**神大寺小学校**

**のびのび学習塾**

**青少年の居場所**



**2015年7月17日**



# JIN-KANA学習塾 No.4

## 目次

自分の考えを表現すること	2	今までの考えが変わる	6
電気電子情報工学科 4 年 波々伯部 義樹		英語英文学科 3 年 滝沢 栞菜	
自分にできること	2	大学生の立場から	7
経営工学科 4 年 神代 正太郎		英語英文学科 3 年 安藤 あかね	
生徒のおかげで自分も変わる	3	生徒の「やろう」を引き出すために	8
自治行政学科 4 年 井上 恵理		英語英文学科 3 年 影山 千恵	
諦めずに考えること	4	自信につながるように	9
自治行政学科 4 年 森 将嘉		自治行政学科 2 年 栗原 涼子	
生徒に寄り添う	4	勉強以外で大切なこと	10
人間科学科 4 年 嶋 由加里		英語英文学科 3 年 六平 圭一	
「一番苦手！」の壁を乗り越えて	5		
外国語研究科欧米言語文化専攻			
佐藤 陽子			
自分の言葉で説明できるように	6		
自治行政学科 3 年 徳山 綾太			

## 自分の考えを表現すること 電気電子情報工学科4年 波々伯部 義樹

私が、JIN-KANA学習塾でのボランティア活動を始めてから1年が経ちました。JIN-KANA学習塾では、同じ教師を目指している仲間と一緒に活動しています。そこでは、生徒一人一人に合わせた学習を生徒と学生が1対1の形式で行っています。生徒の学習活動をよりよくするために、学生間の情報共有や学習の内容を引き継ぎやすいようにグループを組むなどの工夫をみんなで考えて試行錯誤しています。

私は現在、中学3年生のWさんの学習支援をしています。Wさんは4月からJIN-KANA学習塾に来ています。Wさんは入塾当初、緊張していたようであり自分の意見を話さない生徒でした。今では、学校の授業であったことや休みの日に何をしていたかを明るく話してくれます。Wさんには、卒業までにできるようになってほしいことがあります。それは、勉強に限らず問題を解決するための方法を自分で考えてられるようになることです。みんながやっているからそれにするのはなく、問題を解決するにあたって自分でそれが最善策だと言えるようになってほしいです。最初は、難しい計算問題を解くときにWさんに問題解決のためのいくつか選択肢を与えました。「これならこんな方法があるよ」「それならこんな方法があるよ」と、一つ一つ確認したうえで「自分のやりやすいものでやるといいよ」と言う。「どれでやったらいいですか?」のように選ぶことができていませんでした。そこで、やる理由とともに「これでやった方がいいと思うよ」と言う。「じゃあ、それでやります」というような状態でした。ですから、問題解決をするための方法を自分で少しずつ考えられるように練習を始めました。問題を解くときにまずは、Wさんが「どうやって解くか?」を考えます。その考えを絵でも言葉でもなんでもいいので表現します。そして、考えた方を説明するようにしました。始めのうちは「分かんないです」と言って、「先生教えて」とすぐに答えを聞いてきました。しかし、答えは教えずに私がお手本として下手な絵や図などをホワイトボードに描いて「こんな感じの考え方だよ」と何度か説明していました。それをWさんは、下手な絵を笑いながら見て説明を聞いていました。すると、少しずつですが「分かんない」が「わかるかも」「間違ってるかもしれないけど」と言いなが

ら、ホワイトボードを使って自分の考えを説明するようになりました。これからはWさんのできているところはしっかり褒めて、やる気を伸ばしつつ少しずつ問題解決能力も伸ばしていきたいと思っています。

最近Wさんに変化が現れてきました。入塾したばかりのとき学習したい教科は言えたけれど具体的にどこを学習したいのかを言うことができていませんでした。今では、「学校でこの問題が分からなかったからここやりたい」や「ここが苦手だからしっかりやりたい」や「定期テストでここであるからこの学習したい」など自分の足りないところに気がついて行動に移すようになりました。そんなWさんの成長を見て嬉しく感じました。私は、今後もWさんのよりよい成長のために全力でサポートしていこうと思います。

## 自分にできること

### 経営工学科4年 神代 正太郎

私は、昨年5月よりJIN-KANA学習塾に参加しています。一年間の経験を生かして、今年度はより良い学習支援が行えるよう、学生同士生徒の情報を共有しながら活動を行っています。昨年度よりも学生側の人数が少なくなったことから、一人の学生が担当する教科も増え、学生も日々勉強しながらの活動です。私がサポートしている0さんは4月末からJIN-KANA学習塾に来ています。ただ、0さんは毎週木曜日にリハビリに行っているため今の段階では火曜日のみの参加です。0さんについて入塾2ヵ月で分かったことを生かし今後どうサポートしていくかを書いていきたいと思っています。

0さんは中学3年生になって転校しました。ですから、4月にJIN-KANA学習塾に来たときは、学校にもまだ慣れていなかったこともあってか、他の生徒が初めて来た時の緊張以上のものを0さんから感じました。ただ、JIN-KANA学習塾には0さんが以前通っていた中学校の同級生がいたため、その子とは親しげにいつも話しています。まだ入塾して2ヵ月なので、時間をかけて関係を築いていく段階ですが、0さんの場合多くの学生が担当しています。そこで、担当した学生同士の情報共有がより大切になってきます。0さんにとってのJIN-KANA学習塾が、意味ある場所になるように今

後も全体的な働きかけを行っていきます。

勉強に関しては、成績を見ても0さんは得意な教科が多いです。私は0さんの数学を担当していますが、教科書の問題などは難なく解けてしまいます。そこで一度、公立高校の入試問題を解いてみたことがありました。教科書レベルが解けるなら早い段階で入試問題にチャレンジしてみても、という私の考えでしたが、結果的に0さんは全く解けずに終わりました。「難しすぎた。」という0さんの反応から、私は生徒のレベルに合わせた教材選びの大切さというものを痛感しました。そこから0さんの数学の教材をどうするか考えるようになったのですが、他の生徒が使っている教材では0さんは簡単に感じてしまいます。一緒に数回授業を行っていくうちに、0さんには数学への興味を持ってもらうことが今の段階で必要なことだと考えました。学校の勉強は自分でやればできる、もしくは勉強しなくても分かるというのが今の0さんの考えです。そこで、数学的な面白さ、身の回りの何が数学と関係しているのかを伝えることが、勉強する意味、楽しさを0さんが感じられることにつながると思いました。数学に対する専門的な知識、授業の計画などより一層工夫が必要になってくる部分ですが、周りの学生そして生徒とも相談していくことがよりよい授業づくりになるのではないかと考えています。

0さんだけでなくJIN-KANA学習塾には様々な事情をもった生徒がいます。一人ひとり成績も違えば、かわり方も様々です。生徒の目標もそれぞれ違います。成績を上げるといっても40点が目標の生徒もいれば80点が目標の生徒もいます。私たち学生に必要なことは、生徒一人ひとりをしっかり見て、何が自分たちにできるのかを常に考えることです。生徒一人ひとりにとってJIN-KANA学習塾が意味のある場所となるように学生同士の情報共有はもちろん、アドバイザーの先生方に助言をいただきながら努力していきます。



## 生徒のおかげで自分も変わる

### 自治行政学科4年 井上 恵理

JIN-KANA学習塾でボランティアを始めて一年が過ぎました。最初は、学習を進めることばかり重要視していました。しかし、生徒の話を聞き、生徒のことを知っていくことも重要だと思うようになりました。一対一で生徒と接することにも徐々に慣れてきてからは、その日の出来事などを話すことを大切にしています。

今年度からは、Tさんという生徒を担当しています。Tさんが入塾した時から一緒に勉強しています。入塾した当初のTさんは、緊張していて全く目が合いませんでした。こちらから何か質問しても「はい」か「いいえ」で答えることがほとんどで、会話もなかなか続きませんでした。しかし諦めずに質問をしたり、私自身の話をしたりすることで、段々と自分のことを話してくれるようになりました。家族のこと、学校であったこと、部活のことなどいろいろ教えてくれます。最近では、自分から「今日〇〇があった」「テストで〇〇ができた」と話すようになりました。話すときも、以前とは違ってしっかり目が合い、笑顔です。このようにたくさん会話をしてTさんと関係を作ったことで、私自身にも変化がありました。

それは、一緒に勉強することがとても楽しくなったということです。今までは、Tさんの緊張をほぐすこと、学習を進めることばかり気にしていました。しかし、Tさんが自分のことをよく話すようになって、それを楽しいと感じるようになってからは、「もっとTさんと勉強したい」と心から思うようになりました。生徒と関係を作ることで、自分の姿勢も変わってくるのが分かったのです。また、Tさんのできることを増やしたいと思うようにもなりました。「期末テストで、学校の先生と勉強した因数分解の部分はしっかり解くことができた」と自信を持って言っていたのを見て、もっと「できた」を言わせたいと思うようになりました。Tさんと会話をせず、Tさんのことを何も知らないままだったらこのように思うことはなかったと思います。生徒と会話をして関係を作っていくことは、生徒だけでなく自分にとっても大切なことだと学びました。

今は自分の担当以外の生徒とはなかなか話すことができていません。しかし教師は、自分のクラスの生徒全員と関係を作っていくものです。教師を目指すうえで、これからは自分の担当以外の生徒とも会話をしていきます。そしてたくさんの生徒のことを知り、生徒の成長のためにどうすればいいか、ということを考えられるようになります。今担当している生徒との関係を、JIN-KANAの生徒全員と築けるようにしていきたいです。

## 諦めずに考えること

### 自治行政学科4年 森 将嘉

3月にJIN-KANA学習塾（以下：JIN-KANA）の卒業式が行われ、昨年度の生徒が一人一人の新しい道を歩み出し、新しい生徒と大学生も加わり新しいJIN-KANAが4月から始まりました。昨年6月からJIN-KANAを始めた私にとって、昨年度のJIN-KANAはある程度中学生と大学生の関係などができていたなかに私自身が飛び込んで行った形になりました。そのため、中学生と大学生が全く一から今年度のJIN-KANAを作り上げていく経験は、私にとって初めての経験になりました。そして、この経験は実際に教員になった際の学級づくりに繋がる貴重な経験だと感じました。

初回の授業は、生徒理解を行うためにお互いの自己紹介やJIN-KANAでどのような教科を行いたいかなどを話し合いました。私が担当したKさんは、常に私の目を見て、話を一つ一つうなずきながら受け答えをしていました。しかし、初めての環境で少し緊張をしているためか、表情が硬いように思えました。その後、他の学生と授業を行っている様子を見ていても、初めての学生が付く際には表情が硬いように思えました。しかし、授業やおやつの時間に話を重ねるうちにKさんの表情の硬さがほぐれてきました。また、5月になり小学校が同じであった生徒が入塾をしたことにより、さらに表情が明るくなったように思えました。

あるとき、Kさんと話していた際に、中学校の数学の課題が毎月出ており、提出ができていないことを知りました。そこで、JIN-KANAに持ってきて行くことを提案しました。課題は、応用

問題が3問でした。私は、最初の2問についてはKさんに説明することができましたが、最後の応用問題については分からず、Kさんと一緒に悩みながら他の大学生に聞くなどの方法で解答を探しました。しかし、結局最後まで解答が出ませんでした。その日の授業の後に、Kさんが「今までは、わからないと諦めていたが、今日は考えることができた。」と言いました。私は、この言葉を聞き試験において問題の正しい答えを導くことは、重要なことだと思うが、苦手な問題についてわからなくても挑戦し、考えようとする気持ちを持つことのような最初の一步が踏み出せる機会を作ることができればよいと思いました。

これからも私は、JIN-KANAで生徒との日々のふれあいの中にある気付きや経験を大切に、教員になった際に生かすことができるように精一杯中学生のサポートを行っていきたいと思います。

## 生徒に寄り添う

### 人間科学科4年 嶋 由加里

昨年の2月からJIN-KANA学習塾で、中学生の受験に向けての学習のサポートを行っています。はじめは先輩ばかりの中で、常にアドバイスをもらいながら生徒と向き合っていました。しかし、約1年半で徐々に同学年の学生や後輩が増え、自らも考え相談し合いながら生徒と向き合うことができるようになりました。

新年度に入り、新たに生徒が入塾してきました。その中で、私はT君を主に担当することになりました。T君は宿題を出すと自分でできるところはやってきます。そして、生徒と学生が集まり、皆で自己紹介をするなど大勢の前で話すときは、とてもはきはきと話すことができます。学習している際も、こちらの指示をきちんと聞いて取り組むこともできます。しかし、入塾して少し経った頃から遅刻が目立つようになりました。理由を聞くと「お腹が痛かった。」

「寝ていた。」と答えます。はじめは生徒を信じ、体調を気遣うなどしていましたが、ほぼ毎回のよう遅刻するようになっていき、少し疑いの目を持つようになってしまいました。勉強が好きと答える中学生は、少ないと思います。そのため、勉強をする塾から身を遠ざける気持

ちもわかります。しかし、学生側でT君のために教材を準備しても、時間が少なく終わらせることができないと悲しくなることもありました。そこで、T君の気持ちを少しでもJIN-KANAに向けるにはどのようにすればいいのかを、先生方も交えて話し合いました。そして出た答えが、T君をほめるということです。学習の中でできたことをほめ、「もう少し早く来られたらもっと先に進めるよ」と意欲を掻き立てる方法でした。その後、T君は部活動の練習が長引いたり時間通りに来るのが難しいこともありますが、少しでも先に進めたいという気持ちを持たせられれば良いなと思っています。

昨年度、担当だった生徒が志望校に合格することができ、嬉しそうに報告をしてくれたことをよく覚えています。振り返ると、もっとこうしたほうがよかった、こうしていれば変わったかもしれないなど、後悔する場面もあります。しかし、最後に合格を勝ち取るのは生徒自身の力です。今後も考え過ぎずに、生徒の力を信じて寄り添っていきたいと考えています。

### 「一番苦手！」の壁を乗り越えて

#### 外国語学研究科2年 佐藤 陽子

JIN-KANA学習塾の活動を行う中で、やはり数学と英語が苦手だと感じている中学生が多いことを実感しています。分からない問題にぶつかったときに、なかなか自分では解決できないこの2教科は、JIN-KANAに通う中学生がまず「苦手」「嫌い」と挙げる教科であるため、英語科教員を志望している私は常に英語を担当しています。

今年度担当している男子生徒は、彼が来塾した当初から一緒に学習しています。彼は明るい性格で、家族のことや友人のこと、学校での様子など、いつも楽しそうに話してくれます。英語は定期テストの点数が10点台で、授業の様子を聞くと「遊ばずに、板書をノートに写している」と答えるものの、授業で学習した内容は全く覚えていない状態です。第1学年の最初から復習したいという彼の希望から、これまでは易しいレベルの問題集を使用して学習を進めてきました。どの程度理解しているのか、当初は探りながら進めていこうと思ったのですが、始めてみると彼の言っていた「全然分からない」

という言葉が嘘ではないのだ、ということが日に日に分かってきました。

普段どの生徒と学習するときも、理解度の確認のために音読等で常に声に出させています。彼との初回の授業では、第1学年の最初の課に出てくる“junior”を“January”と発音したことから、発音と文字の一致がなっていないことが判明しました。そのことから、彼との学習は「発音と文字の一致」に重点を置くことにしました。「この単語は『〇〇』と発音するんだよ」とすぐに教えるのではなく、フォニックスの指導を取り入れながら発音を推測させたり、意味に関連した単語をヒントにしたりして、彼から引き出すことを常に念頭に置いています。以前は発音と文字を一致させるために宿題として単語練習を課していましたが、部活動等で忙しくなかなかできなかったため、宿題にせずJIN-KANAの時間にできるだけ練習することにしました。何度も口頭での練習をするうちに英語に慣れ始め、自力で発音できる単語が増えたり、整序問題では以前は全く手がつけられなかったのが自ら正しく並べることができるようになったり、といった変化が見られるようになりました。また、英語の発音にも慣れてきたことから、以前はカタカナ読みだったのが英語らしい発音になってきており、先日も何名もの先生方から「〇〇さん、発音上手になったね」と褒められ嬉しそうにしていた姿から、少しずつ自信を持ち始めてくれていたらしいな、と感じています。

今後は復習だけでなく教科書の内容の学習も進め、授業や定期試験、評価につながる学習をしていこうと考えています。夏休みの宿題として教科書（杉原千畝さんを扱った題材）の全訳が出されており、初めは長い文章に圧倒されていた彼ですが、「ナチスって言葉を聞いたことある？」と題材に関する質問をすると、「今社会の授業で勉強している」と学習した内容を自分の言葉で話してくれました。彼はまだ英語に対して苦手意識を持っていますが、彼がもつまざまな知識を引き出し、生かしながら、少しずつ「苦手」の壁と一緒に乗り越えていきたいと思っています。

## 自分の言葉で説明できるように

### 自治行政学科3年 徳山 綾太

私は、今Mさんの社会と国語を主に担当しています。初めてMさんと出会った時、控えめでおとなしい生徒だという印象を受けました。しかし、接していくうちによく話す生徒であるということが分かりました。

Mさんは、言葉の意味が分からずに詰まってしまうことが多々あります。一度、意味の分からない言葉が出てきて授業のほとんどをその言葉の意味を考えることで費やしたことがありました。また、私が質問をしても、答えようとして止めてしまったり、「分からない」と言って答えようとしなかったりすることがありました。ある先輩から、「しっかりと答えさせようとし過ぎなのではないか。大まかな内容や分かる範囲で答えてもらったり、言葉だけではなく図を使って答えてもらったりするようにした方が良いよ。」というアドバイスを貰いました。実践してみると、説明しようとする場面が増えました。今後も続けていきたいと思っています。

Mさんの今後の課題は、確実に分かることを増やしていくことです。分からないことがあると、自分から言ってきます。それを一つずつ確実に分かるようにしていきたいと思っています。分かることを増やし、少しでも、本人が“できた”と思える場面を作りたいと思います。そのためには、教える範囲を絞って教えようと思います。また、繰り返し行い、その内容を定着させていきたいと思っています。そして、分かることと分かることが繋がり、自分の言葉で説明できるように支援していきたいです。

そこで、鍵となることは語彙力が低いことをどうカバーしていくかということです。意味の分からない言葉が出てきたときには、辞書を使用して意味を理解できるようにしています。また、説明する時にはできるだけ、分かりやすい言葉を使うように心掛けています。今後は国語の宿題に読書を出すなどして、語彙力の不足を改善できるようにしていきたいと思っています。Mさんは勉強に対してとても意欲があるため、語彙力の低さを改善することができれば、これまで以上に伸びてくると思います。

今後の授業ではMさんと相談し、その日の授業のテーマを明確にします。その授業でMさんが分かったことを整理できるようにしたいと思いま

す。加えて、自分の言葉で説明したり、自分の意見を述べたりする場面を増やしていきたいと思っています。まずは大まかな内容でも自分の分かる範囲で答えたり、言葉だけでなく図を用いて説明させるようにしたりすることで、本人の言葉で説明できるようにします。その後、足りない部分を補い、しっかりと説明できるようにしていきたいと思っています。



## 今までの考えが変わる

### 英語英文学科3年 滝沢 葉菜

私がJIN-KANA学習塾(以下:JIN-KANA)に参加してから早いものでもう1年が経ち、2度目の夏になりました。JIN-KANAでの活動を通して、生徒と関わることの楽しさを日々感じています。

私が今担当している生徒はDさんです。彼は外国につながる子どもです。また、人と話すことがとても好きで、初めて顔を合わせた時から現在に至るまで、故郷での出来事や学校での出来事をたくさん話してくれて、毎回の授業がとても楽しいです。Dさんとは英語と一緒に勉強しているのですが、Dさんとの勉強を通して、指導の仕方に関する考え方が大きく変わりました。初めは発音とアルファベットの練習から始め、そのあとでテキストに沿って学習を進めることを予定していました。しかし、アドバイザーの先生からテキストに頼りすぎているのではないかと指摘を受けました。確かにその通りでした。支援室にはテキストが用意されているため、それを使って指導をすれば良いと思い、教え方を工夫しようという考えが無くなってしまっていました。また、スペイン語が母語であるDさんにとって、漢字が多く文法説明中心

のテキストは、理解しづらいということは少し考えればわかることでした。それからは、テキストに頼らずに指導するにはどうしたら良いのかとも考えました。そこで思いついたのが、自己紹介をするという活動です。Dさんは話すことが好きなので、テキストを使った文字を書く活動に留まるのではなく、自分自身のことを英語で話せるようにしようと考えたのです。その自己紹介の中で動詞や代名詞を取り入れ、その後の他己紹介で三単現のsを取り入れました。この活動を通して、言葉で代名詞や三単現を説明しなくても何となく分かったようでした。

また、彼との勉強を通して強く思ったことがあります。それは、生徒自身から知識を引き出すことの重要性です。Dさんは英語が得意というわけではありません。しかし、今まで授業で学んだことはしっかりと頭の中に残っているのです。playという単語を見た時には、「後ろにingをつけられるんでしょ？」と聞いてきました。また「今日はmakes me happyっていうのをやったよ」と学校での授業の内容を話してくれることもあります。今までの私は、文法事項を最初から順番に教える必要はないかと思い込んでいました。しかし、生徒の方からこのような話をしてくれた時は、生徒から知識を引き出すチャンスだと思います。それがたとえ私が予定していた学習範囲と違ったとしても、生徒を優先し、生徒に質問を投げかけながら知識を引き出すようにしていこうと思っています。

最近のDさんは英語を話すことだけでなく、英語を書くことにも積極的に取り組んでいます。

「問題を出して」と自ら言うてくることもあり、正解するととても嬉しそうです。せっかくJIN-KANAと一緒に勉強しているので、楽しく勉強していきたいと思っています。そのためにも、どのような勉強が生徒にとって楽しいと思えるのか、これからは試行錯誤しながらやっていこうと思います。



## 大学生の立場から

### 英語英文学科3年 安藤 あかね

JIN-KANA学習塾で本格的に活動をさせていたから、数か月が経ちます。JIN-KANA学習塾に通ってくる中学生は真面目な子が多く、人の話がきちんと聞ける、という印象を持ちました。部活動にも熱がはいっているようで、遅くまで部活をやってから急いで来てくれる姿を毎回うれしく思います。私は週に一回しかこの活動に参加できていないので、ある特定の生徒をずっと見るということとはできていません。しかしそれでも、JIN-KANA学習塾を通じ生徒とかかわっていく中でいろいろ学ぶことができると実感しています。

週一回で生徒と学習を進めていく中で、S君との学習では生徒の成長を感じられるので、私自身も良い経験になっていると感じます。S君は英語が苦手と言っていますが、毎回とても積極的に学習しています。ミスも多々ありますが、楽しんで学習に取り組んでいるようです。また、単語テストの問題を間違ったときに悔しがる姿勢も見られるので、悔しさをばねにまだまだ成長できるのではないかと期待しています。一緒に頑張っていきたいと思います。S君は新しく入った学生ともよくコミュニケーションもとれるようになって、笑顔も増えたように思います。S君は英語の読みがメキメキ伸びてきました。うまく発音できたときはうれしいようで、いつも何単語か発音できた単語を持ち帰っては使っています。しかし、パッと見て判断し、正確に発音できないこともあるので、そこはフォローしていきたいです。

S君のみならず、他の生徒にも言えることです。が、学習において、どこまでが分かっているか、どこが難しく何が分からないのか、明確にすることは難しいことです。しかし、完全にはできなくても、生徒と一緒に考えて解決に導こうとすることはできます。一緒に考えて、生徒が理解することができれば、生徒のやる気を引き出すことができるのではないのでしょうか。生徒に「教える」ではなく「共に学び、わかる」ことが大事だと私は思います。

JIN-KANA学習塾だからできること、大学生だからできることってなんだろう？そう考えたとき、「年の近いお兄さん・お姉さんと交流する場」だと私は考えました。家でも学校でもない第三の場所であるJIN-KANA学習塾は、「学習の場」であ

り、「普段関わらない人と接することができる場」だと思います。だからこそ生徒に寄り添い、生徒から笑顔が見られるような活動を目指していきたいと思っています。そのためには生徒とのコミュニケーションを大事にして、「大学生だからこそできること」を意識して指導にあたりたいです。



## 生徒の「やろう」を引き出すために

### 英語英文学科3年 影山 千恵

今年度の4月からJIN-KANA学習塾に参加させていただき、3か月が経ちました。それまで誰かに勉強を教えた経験がなかったので、自分のやり方は正しいのかとても不安でした。今も、自分の教え方や教材準備は生徒のためになっているのか常に不安ですが、自分なりに考えて活動しています。

私は今、中学3年生のD君の数学を主に担当しています。彼は、とても明るくて、初めて会ったときから気軽に話しかけてくれました。中学3年生ですが、今は中学1年生の内容を勉強しています。学校の授業にあまり参加してないようなので、それを補うような形で学習しています。また、かけ算などの基本的な計算が身についていないので、授業の初めに百ます計算などの簡単な計算問題をしているのですが、D君はいつも面倒臭がって、雑談を挟みながらやっていたため、計算問題だけで授業の半分が終わってしまうこともありました。D君は面倒臭がるのですが、解き始めると早いので、百ます計算を、時間を計ってやろう、と言うと、10分で終わらせる、と目標を立てて、雑談をあまりせず集中して問題に取り組んでいました。1回目は10分以内に終わらせることができなかったのですが、2回目は8分で終わらせることができ、嬉しそうでした。D君はJIN-KANAには学生と話しをするために来ているような状態で、それまでD君が雑談せず集中している様子をあまり見たことがなかったので、「時間を計ろう」の一言でD君の勉強に取り組む姿勢が変わったのは、言った私自身の驚きでした。D君は、雑談を挟みながら彼のペースで進めていく学習がいいのかと思っていたのですが、目標設定でD君のやる気ができることに気付くことができたので、これから学習するにあたって、自ら目標を立てられる環境をつくって、彼自身から「やろう!」と思ってもらえるようにしていきたいです。

私自身、未熟な点が多く試行錯誤しながら活動しています。彼の、集中して勉強している様子や、解けなかった問題が解けて満足した様子を見ると、私も成長できているのかなと思います。これからも、高校入試に向けて、D君と一緒に努力していきたいです。

## 自信につながるように 自治行政学科2年 栗原 涼子

私は、昨年の10月からJIN-KANA学習塾の活動に参加しています。JIN-KANA学習塾では、中学3年生の高校受験に向けての学習のサポートを行っています。また、学習をサポートするだけでなく、学校や家での様子を聞くなど生徒の話し相手になることもあります。活動を始めたころは生徒との接し方など不安に思うところもありましたが、今は生徒に積極的に声をかけるようにしています。

現在、私はSさんの数学を担当しています。Sさんはとても真面目で明るい女の子です。Sさんが初めてJIN-KANA学習塾に来た日のことです。初めて来る場所ということもあり緊張している様子でした。私はSさんの担当だったので、彼女がどういう子なのか知るために好きな教科や苦手な教科、趣味などを聞きました。このような会話をする中でSさんの緊張もほぐれたように感じ、笑顔を見せてくれたことを覚えています。現在では、自分から学校のことや自分の話しをするようになり、担当学生以外とも積極的に関わるなど笑顔が増えたように思います。

数学の学習では問題の解き方をよく理解して解けていますが、計算ミスや符号のつけ忘れなどのミスが多いと感じていました。Sさんもミスが多いことを気にしていました。また、Sさんは数学に対して苦手意識があるようでした。私はSさんの計算ミスなどがなくなるように、どこで間違えたかが分かるように途中式をきちんと書くこと、問題を解き終わった後は見直しをすることを勧めました。

これらのことを続ける中で、Sさんに少しずつ変化が現れました。次第に計算ミスなどが少なくなってきました。Sさんに中学校での授業について聞いたときも、以前に比べて計算ミスも少なくなり、問題を解くスピードも早くなったと嬉しそうに言っていました。現在、Sさんは他の教科でも問題を解いた後は見直しをしているそうです。Sさんにとって、今の学習の仕方が定着してきたように思います。また、彼女の中で学習に対しての自信がついてきているように感じています。

中学校での定期テストが終わり数学のテスト結果を聞いたところ、「前よりも点数が上がっ

た!」と言っていました。特に計算ミスなどもなかったと言っていたので、今までの取り組みの成果がでてきていると思いました。Sさんの嬉しそうな表情を見て、私も嬉しく思いました。今後のSさんへの学習の進め方としては、これまでの学習を続けるとともに本人が苦手とする分野に対しては丁寧に進めていきたいと思っています。私は生徒に少しでも勉強に対する自信を持ってもらえるようなサポートをしていきたいと思っています。そのためには毎回の学習の準備をきちんと行い、次に向けて改善すべきところは直すなどし、生徒一人ひとりに合った学習方法を進めていきたいと思っています。



## 勉強以外で大切なこと

### 英語英文学科3年 六平 圭一

私が、今年の5月からJIN-KANA学習塾での活動に参加させていただいてから約2か月がたちました。当初に比べて慣れてきた感覚はありますが、まだわからないことだらけです。

この活動に参加して、まず最初に思ったことは戸惑いでした。なまじ塾講師としての経験があるばかりに、経験したことのない学習環境、担当したことのないタイプの生徒の対応にどうすればいいのかわからず、右往左往していたことを覚えています。特に教え方に関しては、授業のたびに入江先生にさんざん注意され、同僚の学生からもたくさんの指摘を受け、頭をパンパンにしなが教室を後にすることが多かったです。そんな中で、K君の英語をメインとして担当することが決まりました。初めて担当する生徒だったので緊張しながら、変な印象を与えないように気を配りながら授業を進めていきました。しかし、考えていたセリフは囁むは、変に意識して必要以上に大声になるはで散々な授業をしてしまいました。幸いにも、K君は初対面の自分に対しても時折笑顔をみせてくれたり、K君自身の話をしてくれたり、ファーストインプレッションは良くないながらも、一応授業としては形にすることができました。

K君の勉強に対しての姿勢は、最初の段階から非常に誠実でした。にもかかわらず、簡単な単語が書けない、基本の英作文ができないといったことが多々ありました。理由は単純で、勉強の仕方がわからない、どう物事を整理し記憶すればいいのかわからない、というだけの話でした。若干話が大きくなりますが、世の中には物事を効率よくでき、最低限の努力で成功を収めることのできる人がたくさんいるように思います。そして反対に、どんなに努力をしてもなかなか結果が出ない人も同様にたくさんいると思います。違いが生じる原因は、勿論努力の方法にあります。一生懸命に頑張っても、やり方を間違ってしまうば努力に見合った結果は生まれません。今回のK君がまさにそうでした。宿題はきちんとこなすし、授業態度は至って真面目なのに中々成績が上がらない。結果がついてこない。

自分が生徒にできることを色々と考えてみた結果、上記のように努力の方法についてアプローチしていきたいと思います。私は、生徒が努力をしたらその分だけ報われてほしいと考えてしまいます。難しいことであるのですが、そうしてできた時間を有効に使い勉強以外のことについても積極的に目を向け、柔軟な思考ができる人に育ってほしいと思います。



**発行日：2015年7月17日**

**発行所：神大ユース・サポート・プロジェクト (JYSP)**

**TEL：045-481-5661 (内線4352)**

**FAX：045-413-4154**

**E-mail：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp**

**URL：http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher\_trainig\_course/jysp**